

第43回通常総会を開催

労福協、連台、福祉事業団体が連携をより強化し 活力ある福祉社会、地域共生で暮らしに夢を!!

福岡県労福協は5月25日（木）第43回通常総会を全労済モルティ天神ビルにおいて開催しました。会員構成員数50名中41名が出席、総会成立を確認し、中村副会長により開会挨拶、議長に下野孝次代議員（連合福岡）を選出して始まりました。



▲山口会長のあいさつ

山口会長は代表挨拶の中で「県労福協は、職場、地域の安全、安心、安定とゆとりある福祉社会をめざして運動を進めています。景気は回復はしてきましたが、地場中小企業に目を向けると今年の春闘

を見ても大変きびしく、逆に格差が拡大しています。又、政府が進めている財政再建では勤労者世帯を狙い撃つ大増税であり、家計はますます苦しく自助も限界に達しています。こうした中で私達は福祉運動を強化するにあたり、共助が極めて重要であり、これまでの身内だけの運動から『勤労者の暮らしにかかわるサポート事業』を県内7地域に今秋くらいまでに発足をしたいと考えています。

そして、生活していく場『地域』の問題。『クレ・サラ』、『介護』、『勤労者の職場』の問題など相談、解決までのアドバイスをして行きたい。

福祉募金の取り組みについては、地域労福協の強力な取り組みにより昨年実績を大きく上回ることが出来、労福協運動のひとつの柱ができましたことを、感謝します。

今取り組んでいる、クレ・サラ（消費者金融）の金利引き下げ1,000万人署名についても強力におし進めてほしい。

最後に昨年から子どもたちが巻きこまれる事件・事故の増加に、労福協として安全・安心を守るため何が出来るか検討して行かねばならない。会員皆様のご協力を得て運動を発展させたい。」と述べられました。

その後、各界からのご来賓を代表して、福岡県原田労働局長、福岡市三上市民局課長、北九州市上田産業学術振興局主幹、福返連久保田事務局長より連帯と激励のご挨拶をいただきました。最後に各方面からのメッセージ等が紹介され議事に入りました。



▲福岡県原田労働局長のあいさつ

議事は、2005年度の取り組み報告、会計決算、監査報告が行われました。2006年度活動方針では、「福祉事業団体強化」「勤労者の暮らしにかかわるサポート事業」への体制作り、2007年団塊の世代、地域で活動の場作り、福祉情報のネットワーク化に向けての取り組み、地域労福協運動の充実に向けて、運動を推進する予算案、定款の一部変更に関する件、役員改選年度であり提案、各議案については満場一致で承認決定されました。



▲代議員の皆さん

第43回通常総会は舌間副会長による閉会の辞をもって盛会裡のうちに終了いたしました。

旅 PHOTO

in 十和田湖 奥入瀬溪流

【十和田湖】

典型的な二重式カルデラ湖で、海拔400m、周囲は約46.2km、湖の最深部326.8mと日本第3位の美しい藍をたたえた神秘的湖です。「山は富士、湖は十和田湖、広い世界につづつ」と、かの犬伏桂月が絶賛しました。波静かな湖面では、湖上遊覧船やボート遊びができ、また湖周をめぐるサイクリングやハイキングも楽しめます。新緑や紅葉の季節はもちろん、雪の十和田湖も新鮮な味わいです。



【奥入瀬溪流】

十和田湖畔の子ノ口から焼山に至る約14kmの渓流美。千変万化の水の流れが生む躍動感あふれる景観が展開します。奥入瀬を代表する「阿修羅の流れ」をはじめ、「雲井の滝」「銚子大滝」など主な滝だけでも十四ヶ所もあり、見どころがいっぱい。



【乙女の像】

十和田湖畔の美しい砂浜、御前ヶ浜にたたずむブロンズ像は、高村光太郎の晩年の傑作。十和田湖のシンボルとなっています。



2006年度重点課題と継続的取り組みについて

労働運動・労働者福祉運動の原点は職場であり、その主役は地方・地域を生活の拠点とする労働者とその家族です。私たちの運動は、そうした人々の日々の暮らしから目をそらすことなく、現場実感を大切にしたいものでなければなりません。すべての労働者・家族が抱えているさまざまな不安や問題を解消し「今日に困らず、明日に憂いなく、将来に不安のない暮らしが出来る」一、そんな社会づくりのために、私たちは政策・制度課題の改善はもとより、労働者・家族の総合的な生活支援・サービスを可能にする幅広い活動に、メリハリをつけて取り組んでいきます。活動を進めるにあたっては、連合をはじめとする労働組合組織や関係事業団体、県生協連、目的を同じくするNPO諸団体などと中央・地方を通じて密接な連携を大切にしていきます。

こうした理念のもと、私達労協は展望ある福祉社会実現に向け、以下の活動に取り組んでいきます。

重点活動

- I. 「勤労者の暮らしにかかわるサポート事業」への体制作り
- II. 事業団体の活動を支援する取り組み
- III. 退職者・高齢者との連携・支援の活動
- IV. 計画的・継続的学習活動の展開

通年的な取り組み

- I. 課題別プロジェクトの検討結果を実践に生かそう
 - (1) 福祉なんでも相談ネットワーク構築について
 - (2) 中小企業勤労者福祉サービスセンターの充実、強化
 - (3) 介護サポートの取り組み
 - (4) ファミリー・サポート、子育て支援の取り組み
- II. 政策・制度要求実現に向けて
 - (1) 社会保障制度改善への対応について
 - (2) 勤労者福祉向上に向けた自治体要請の取り組みについて
 - (3) 政策課題について連合福岡議員懇との連携
 - (4) 食の安全確保と環境の保全について

III. 活動の強化・充実に向け

- (1) 関係団体との連携・協力体制の強化について
- (2) 三役会議・理事会をはじめ各種会議の機能的運営について
- (3) 2006年県民健康増進事業と社会貢献活動の取り組みについて
- (4) 福岡県労協「あり方検討委員会」答申に対しての具体的取り組みについて

IV. その他の取り組み

- (1) 暮らしの安全運動として防災ネットワーク作りについて

役員名簿

2006年5月25日

役職名	氏名	選出団体(役職名)
会長	山口 正三	連合福岡(会長)
副会長	中村 太良	九州労働金庫福岡県本部(本部長)
〃	舌間 一成	全労済福岡県本部(理事長)
事務局長	伏下 隆一	連合福岡(労協専従)
理事	高田 幸一	連合福岡(副事務局長)
〃	則岡 正男	九州労働金庫福岡県本部(副本部長)
〃	湯浅 義信	全労済福岡県本部(専務理事)
〃	村岡 五十次	福岡県生協連(会長理事)
〃	西島 忠孝	北九州総合労働会館(専務理事)
〃	佐伯 衛	北九州地域労協(事務局長)
〃	鎌田 徹	遠賀川地域労協(事務局長)
〃	梅 園枝	福岡地域労協(事務局長)
〃	小柳 啓二	北筑後地域労協(事務局長)
〃	本田 賢治	南筑後地域労協(事務局長)
〃	田中 幸雄	筑紫・甘木朝倉地域労協(事務局長)
〃	田中 篤	京築・田川地域労協(事務局長)
監事	浦田 哲也	連合福岡(福教組書記長)
〃	岡野 博彦	九州労働金庫福岡県本部(業務推進課長)

福岡県労働者福祉協議会

「元気に安心して暮せる活気ある社会へ」 全労済協会宮崎シンポジウム開催される

5月18日宮崎市フェニックス・シーガイア・リゾートにおいて、宮崎シンポジウムが開催されました。「地域の支えあい、健やかな生活を」していくために記念講演、パネルディスカッションなどこれから元気に過ごすためには何が必要で、自らどう行動するか提起されました。

開催趣旨

団塊の世代が定年を迎える2007年問題が注目されるなど、本格的な高齢社会を迎えるなかで、元気に安心して暮せる、活気ある街づくりが求められています。一人暮らしや核家族などライフスタイルが多様化する今日では、地域における支えあい、ふれあいが、心身ともに明るく健やかな人生を過ごすための必要な役割を担っているといえます。

本シンポジウムでは、高齢世代の人生経験を活かした取り組みや、生きがいを持った豊かな暮らし方、そして、それを支える地域の活動について考えます。

記念講演に、菅原文太氏(俳優・NPO法人ふるさと回帰支援センター顧問)を講師に迎え「日本の世の中はおおきく変わりつつあり、昔の近所づきあいがなくなり、住みにくくなった。そうした中でみんなが一人ひとり、意識を変え生



▲講師 菅原文太氏

きて行くことが大切である。そして、何をするかを考え、立ちどまらず、行動をし、その中でコミュニケーションは大切に、一人ではできないが、みんなでやれば出来る。欲望は、果てしない、しかし何が大切かどうしたら世の中を良くすることが出来るかを考え行動する事が大切である、そして子どもは大切にしよう」と共感させられる講演でした。

次いで第二部のパネルディスカッションでは、超高齢時代における生きがいや地域活動のヒントなどについて、ディスカッションが行われました。

- ①宮崎市は、九州一のボランティア都市みやざき・九州一の健康福祉都市みやざき実現をめざしている。
- ②日本是世界一の長寿国、日本一住みよい「高齢化社会の町に」
- ③健康と生きがい作りの取り組みは「高齢者や障害者へ自立支援プログラムの提供、実践に基づいた活動の中から21世紀は元気老人・元気障害者が社会を変える」
- ④地方における改定介護保険制度の現状と課題

多くの有意義な内容や、特に地域における介護保険制度の問題点など提起をうけ、4時間にわたるこの会は終了いたしました。参加者には、何かを感じさせ、何かを行おう、立ちどまらないで、皆で生きがいを持った豊かな暮らし方をと、又一步勇気をいただいた講演会でした。



九州ろうきん福岡県本部 「NPO助成」団体 決定!!

九州ろうきんでは、社会貢献活動の一環として、「NPO助成」制度を設け、2004年度より、福祉・文化・環境面で地域活動されているNPO法人等の団体へ助成を行ってまいりました。2006年度も九州7県下で1月5日～2月19日まで「NPO助成」の募集を行い、福岡県本部内においては、63件のNPO法人等の団体より応募がありました。

福岡県本部では3月13日に第1回「NPO助成」審査委員会、3月20日に第2回「NPO助成」審査委員会を開催し、応募団体の活動内容や活動地域を考慮し、厳正な審査を行いました。その結果、「NPO助成」団体を以下の13団体に決定しましたのでお知らせ致します。

2006年度 九州
ろうきん福岡県本部
「NPO助成フォーラム」を
4月23日(日)に開催
いたしました。



◎ 2006 年度「NPO助成」団体

NO.	団 体 名	住 所	区 分
1	特定非営利活動法人 九州ビーチバレーリーグ	福岡市中央区薬院	文 化
2	いてもたってもおら連帯・ふくおか+市民災害救援隊ネットワーク	福岡市中央区渡辺通り	環 境
3	NPO福岡邦楽芸術文化振興会	北九州市小倉北区上到津	文 化
4	特定非営利活動法人 ソーシャルサポート相談室	福岡市東区名島	福 祉
5	特定非営利活動法人 子育てネットワーク春日	福岡県春日市春日	福 祉
6	NPO法人 心を伝える会	福岡市中央区天神	福 祉
7	特定非営利活動法人 箱崎自由学舎 ESPERANZA	福岡市東区箱崎	文 化
8	特定非営利活動法人 あんしんまちづくりの会	北九州市八幡西区上上津役	環 境
9	特定非営利活動法人 NPO子どもの命と心のネット 長谷健顕彰会	柳川市下宮永町	文 化
10	特定非営利活動法人 北九州ホームレス支援機構	北九州市八幡東区荒生田	福 祉
11	特定非営利活動法人 福祉でまちがよみがえる会	大牟田市築町	福 祉
12	特定非営利活動法人 アジア女性センター	福岡市博多南郵便局私書箱18	福 祉
13	あすなる会	福岡市中央区大名	文 化

お問い合わせ先



九州労働金庫福岡県本部

〒810-8509 福岡市中央区大手門3-3-3 ☎092-714-7143
ホームページアドレス <http://kyusyu.rokin.or.jp/>

保障のことなら



2006年2月に続いて

マイカー共済が8月より改善されます。

ZENROSAI NEWS



自動車総合補償共済

- その1 自転車賠償責任補償特約の新設**
追加掛金は年1260円 月110円
(自転車の所有、使用、管理に起因する事故についての賠償責任を補償)
- その2 弁護士費用等補償特約の補償範囲の拡大**
(自転車の所有、使用、管理に起因する事故補償を追加)
- その3 子供運転年齢条件特約の新設**
主たる被共済者の子供専用の年齢条件を設定することで、付帯された運転者年齢条件を変更せずに、子供を補償の対象に追加できます。
- その4 車中動産盗難補償特約の新設**
追加掛金は年1830円 月160円
(車両オールリスクがエコノミーワイドが付帯され、車両損害付随諸費用補償特約が付帯されていること)
- その5 盗難防止装置装備車割引(5%割引)の新設**
契約車両(被共済自動車)に全労済の定める盗難防止装置が装備されている場合、車両損害補償の共済掛金を5%割引します。
詳しくは支所職員にお尋ねください。



全労済 福岡支所

福岡市中央区舞鶴1-1-7 全労済モルティ天神ビル3F
TEL 092-732-4047

全労済 北九州支所

北九州市小倉北区真鶴1-5-15 真鶴会館3F
TEL 093-591-7220

全労済 筑後支所

久留米市東町42-14ワカナステートビル3F
TEL 0942-38-8211

お問い合わせ 全労済福岡県本部
(福岡県労働者共済生活協同組合)

受付時間(土・日・祝日を除く) 9:00~17:15まで

TEL 092-739-6100

『遠賀川地域労働者福祉協議会』の紹介

遠賀川地域労福協は、1995年11月25日遠賀中間地域労福協、直方鞍手地域労福協、嘉飯山地域労福協が統合して結成され、昨年6月17日第10回定期総会を開催し、結成10周年を迎えました。

現在の遠賀川地域労福協は、連合遠賀川地協、九州労金（八幡・直方・飯塚支店）、全労済（北九州支所）、筑豊地区友愛会、中遠地区労センター、地区労福協（中遠・直鞍・嘉飯）の団体で構成しています。

主な活動は、毎月3地区持ち回りで働くものの無料法律相談を開設、年末から4月にかけて福祉募金活動と8月の福祉施設への贈呈、6月から7月には未組織の地域勤労者など誰でも参加出来る「ふれあいボウリング大会」を3地区予選大会をし、3地区から8チームが参加する遠賀川地域労福協決勝大会として開催しています。9月第一日曜日には「列島グリーンキャンペーン」で中遠・直鞍・嘉飯地区での清掃作業と環境問題をテーマとする

事前学習会を取り組んでいます。その他の学習会の取り組みでは、11月ライフサポートセミナー（生涯生活設計研修会）や福退連と共催して年金、税金制度などで開催しています。

遠賀川地域労福協の克服課題は、地域が広範なため中遠・直鞍・嘉飯地区の事情に合わせた労福協活動が必要とされます。また、福退連や議員懇との連携、自治体要請など少しでも前進できるよう働く仲間の手伝いをしていきます。



遠賀川地域労福協
事務局長 鎌田 徹

中央労福協全国研究集会に参加して

6月8日から、中央労福協の全国研究集会に、福岡県労福協から7名が参加しました。その中で特に印象に残ったのは、早稲田大学・岡沢教授の話でした。



岡沢教授

- 「この世界には208の国や地方があり65億人が暮らしている。そして、それぞれが違った文化や政治をもち、65億人のオンリーワンがあってよい」
- 「しかし、私たちの周りには、私たちが常識だと思っていることが周りの人達にとっては全く非常識であることが、日常の中にゴロゴロしてはいないか。ある県知事が、選挙権を中学生から付与しても良いのではないかと提起した。世間一般は時期尚早と冷ややかだったが、全世界で選挙権が20歳以上なのは日本と韓国ぐらいなのを皆さんは知っていますか」
- 「いま日本では介護について聞くと、うちは妻が、嫁が、娘がと返ってくる。女性が介護の最前線に立っているのである。連合・労福協も福祉や介護をテーマで議論されているが、それぞれの団体における意思決定の過程に“女性”がどれだけ関わっているだろうか」

○「出生率1.25となると、一人息子が一人娘とならざるを得ない。そうすると長男と長女が結婚するケースが増えてくるが、長男に嫁げば、両親・不動産・墓・位牌・姓等々、引き継いでいくべきものが多い為、長男との結婚にはどうしても迷いが出てきてしまう。この様に日本は悪い方向へだんだん進んでいる。しかし発想を変えれば、この高齢化社会の日本で日本に住んで良かったと思える社会に変えられるかどうかを実験できる唯一の国である。是非、連合・労福協の奮闘を!!」

等々の話を聞きました。

実は6月2日に北筑後で福祉講演会を実施しましたが、講師の藤林さんからこんな話がありました。

○「行政が例えば障害者に〇〇億円の予算を使う場合、職員個々はいい感性を持たれているのだが、行政という組織として対応された場合“やってあげる”“パンフを作ってこの事業は終わり”となってしまう。行政における政策決定の過程に私たちの声を反映するシステムが必要だと思う」

この様な話であったが、この話と岡沢さんの話が丁度ダブった訳です。

やはり、地域労福協・連合地協の運動も、これまでと視点を変えて、「ワンストップサービス」の具体的実践に向けた取り組みが求められています。



▲北筑後地域労福協 事務局長 小柳啓二

さまざまなニーズに応える 安心のろうきんローン

住宅ローン、フリーローン、
教育ローン、カーライフローン、
カードローン(マイプラン)

ホームページアドレス
<http://kyusyu.rokin.or.jp/>

お問い合わせは

九州労働金庫福岡県本部
(092) 714-7143



家族と住まいに大きな安心。
セット加入で頼れる保障。

自然災害保障	火災共済	総合医療共済
マイカー共済	こくみん共済	
自賠責共済	ねんきん共済	

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆様の安心とゆとりある暮らしをめざしています。すでに組合員は全国で1,390万人。出資金をお支払いいただいて各都道府県生協の組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

保障のことなら
全労済
全国労働者共済生活協同組合連合会

全労済福岡県本部 (福岡県労働者共済生活協同組合)
インターネットホームページアドレス
TEL 092-739-6100 <http://www.zenrosai.or.jp>

加 盟 団 体

北九州地域労福協／遠賀川地域労福協／福岡地域労福協／北筑後地域労福協／南筑後地域労福協／筑紫・甘朝地域労福協
京築・田川地域労福協／連合福岡／九州労働金庫福岡県本部／全労済福岡県本部／福岡県生活協同組合連合会／真鶴会館